

学習指導要領	教師の願い	児童の実態
話し手が知らせたいことや自分が聞きたいことを落とさないように集中して聞き、話の内容を捉えて感想をもつことができるようにする。	対話を通して、楽しさやよさを実感させ、相手の話を最後まで聞く姿勢や、自分が聞きたいことを明確にして聞く力を身に付けさせたい。また、学びの構造転換の基礎となる、対話の力を培っていききたい。	「高二トーク」での活動を通して、対話の楽しさを実感している姿が見られるようになってきた。その一方で自分の「伝えたい」という気持ちが強く、相手の話を最後まで聞くことや、自分の聞きたいことを明確にして聞くことに課題が見られる。

校内研究主題

主体的・協働的な学びを通して、思いや考えを深める児童の育成

<「主体的・協働的」の捉え>

対話を楽しみ、対話を通して一人ひとりの発見が共有されたり、新しい気づきが生まれたりすることで、自分の考えに生かすことができる。

<「思いや考えを深める」の捉え>

友達の意見をよく聞き、話の内容を捉えて自分の感想をもつことができる。

目指す児童像(低学年)

対話を楽しみ、相手の考えを受け止め、自分の考えをもつ児童

仮説

「友達」という児童にとって身近なことをテーマにし、話し合いの活動をすることにより、意欲的に学習に取り組み、学びの構造転換の土台・原動力となる対話の力を身につけることができるのではないかな。

研究主題に迫る手だて ～協働的な学びの基礎づくり～

(1)対話を楽しむための工夫

①年間を通して取り組む高二トーク

- ・「お話ピンポンゲーム」での対話の時間に取り組ませる。
- ・聞いたことをカードに記録させ、積み重ねていく。
- ・繰り返し行うことで、対話の力を高めさせる。
- ・分からないことを質問させ、自分の考えにつなげる力を育てていく。
- ・話題設定の工夫
自分たちで話したい話題を考えさせる。

(2)聞くことの力を高める工夫

①タブレットの活用

- ・対話を録画することで、客観的に見られるようにする。
- ・タブレットを使用することで、聞くことに集中させる。
- ・よい聞き方（聞く態度・自分の知りたいことや分からないことを質問する姿）や、質問の仕方を全体で共有することができる。

②聞く態度の育成

- ・「うめうめ」(うなずく・目を見る・ラストまで・一生懸命・笑顔で聞く)の継続した指導。
- ・児童が対話の中で使った、質問するときの言葉を掲示する。

③動画の活用

- ・2種類の動画の映像を見比べ、よりよい聞き方について気付かせる。

第1学年国語科学習展開案

令和4年2月10日（木）第5校時
杉並区立高井戸第二小学校 1年3組 28名
授業者 主任教諭 高橋 由佳

1 単元名 「ききかた名人になろう」 6時間扱い

2 単元の目標

○話し手が知らせたいことや自分が聞きたいことを落とさないように集中して聞き、話の内容を捉えて感想をもつことができる。

○語と語や文と文との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き方表し方を工夫することができる。

3 単元の評価規準

知識・技能	①身近なことを表す語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、言葉には意味による語句のまとまりがあることに気付き、語彙を豊かにしている。((1)オ)
思考・判断・表現	②「ききかた名人」になるために、話し手が知らせたいことや自分が聞きたいことを落とさないように集中して聞き、話の内容を捉えて感想をもっている。 (A(1)エ) ③友達を紹介するために、語と語や文と文との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫している。(B(1)ウ) 友達の文章に対する感想を伝え合い、自分の文章の内容や表現のよいところを見つけている。(B(1)オ)
主体的に学習に取り組む態度	④友達を紹介するという見通しをもち、進んで友達に質問し、友達の紹介文を書こうとしている。 書くことの楽しさを味わい、みんなに知らせたいことを書こうとしている。

4 単元について（教材観 児童の実態）

(1)学習指導要領との関連

話し手が知らせたいことや自分が聞きたいことを落とさないように集中して聞き、話の内容を捉えて感想をもつことができるようにする。また、語と語や文と文との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫する。

(2)学習材観

本学習材では、いつも一緒に過ごしている友達という、児童にとって身近でよく知っていることを題材にし、「友達のことを詳しく知ってクラスみんなに紹介しよう」という学習をする。しかし、児童はいざ友達のことを紹介しようと思っても、一面的にしか知らなかったり、どのように紹介したらよいか分からなかったりする。

そこで、まだみんなが知らない友達の一面を聞き出すために、どのようなことを質問したらいいのか考えさせていく。そして聞いたことをみんなに紹介するため、紹介文を書く。このように「話すこと・聞くこと」から「書くこと」へつなげた学習単元になっている。

本校では学習者が主体的に探究する学習を目指して研究をしているが、その土台となるのが他者との対話の力だと考える。したがって、小学校低学年の国語科の話すこと・聞くこと領域の学習で、しっかりと対話の基礎を身に付けることは、学びの構造転換の中で児童が主体的に学習を探究していくために欠かすことができない。そのことを意識しながら本単元を指導していきたい。

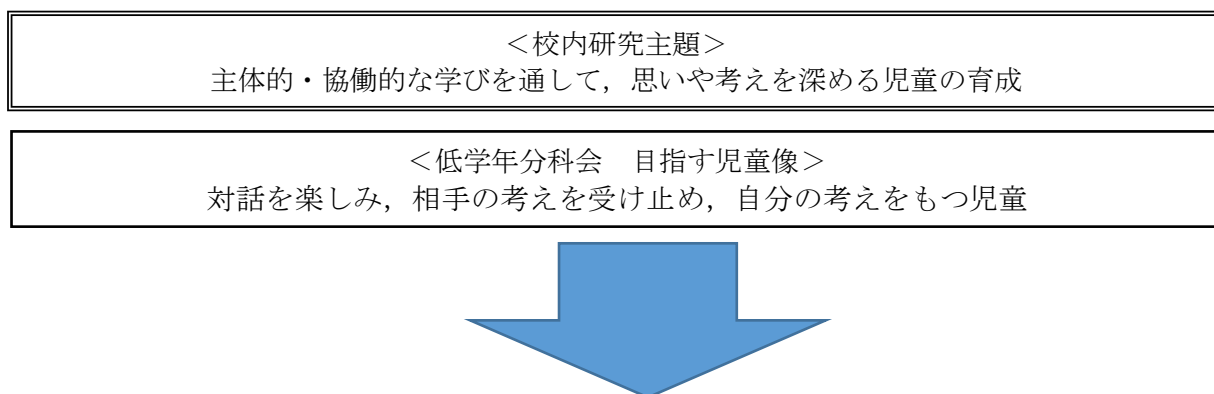
(3)学習者について

本学級の児童は、高二トークや高二タイム、様々な教科で対話の時間を取り入れてきた。聞く態度を身に付けるために「うめうめ（うなずく、目を見る、ラストまで、一生懸命、笑顔で）」を合言葉にして取り組んできている。

また高二タイムでは、相手の話を受け止め返す力を育むために、「お話ピンポンゲーム」（高二トーク活動集参照）の話題を替え、年間を通して取り組んできた。友達の意見を聞いたり、自分のことを話したりする活動は積極的に取り組む児童が多い。活動を通して、対話の楽しさやよさを実感している姿が見られるようになってきた。しかし、自分の「話したい、伝えたい」という気持ちが強く、相手の話を最後まで聞くことや、自分の聞きたいことを明確にして話を聞くことはできていない児童が多い。

本単元を通して、話し手が知らせたいことや、自分の聞きたいことを落とさずに聞く力を身に付けさせたい。

5 研究主題に迫る手だて



(1)対話を楽しむための工夫

①年間を通して取り組む高二トーク（高二トーク活動集参照）

高二トークでは、「お話ピンポンゲーム」で様々な話題で対話を行った。相手の話を受けて返す力を育むために、継続して取り組んできた。相手のことを知ることや自分のことを話す体験を積み重ねることで、自分の話を聞いてもらう喜びと、相手のことを知る楽しさにつなげていく。

また、友達が聞き取った内容を、カードに記録して学習の積み重ねをしていくことで、情報が集まっていく楽しさを味わせる。また聞き手・話し手の役割を交替し、繰り返し行うことで対話の力を高めていく。

互いの話に関心をもち、話の内容を理解して、分からないことを質問しながら、自分の考えにつなげる力を育てることにより、学びの構造転換の基礎となる対話の力を高めていくことができると考えた。

(2)聞くことの力を高める工夫

①タブレットの活用

タブレットで対話を録画することにより、自分がどのような言葉を使って詳しく聞くことができているかを客観的に見ることができる。対話の時にメモをしないことで、聞くことに集中することができ、友達に聞いたことを文章に書く時には、タブレットの録画を見て振り返ることができる。

また、タブレットで録画した児童の姿を全体で共有することにより、全体でよい聞き方（聞く態度・自分の知りたいことや、分からないことを質問する姿）を共有でき、対話することの楽しさにも気付くことがで

きると考えた。

②話し手が話しやすい聞く態度の育成

話し手が話しやすいような聞き手の態度面の育成のため、「うめうめ」を合言葉に聞く姿勢を育ててきている。実際に対話の中で児童が使った言葉をもとに、詳しく聞く言葉や、共感を示す言葉・賞賛・相槌などを集めたものを掲示することで、対話の中でどのようなことを聞いたらいいか困ったときに参考にできると考えた。

③動画の活用

教師による対話の二本の動画（内容は指導計画 第 2 時 動画①②参照）を見比べることで、よい聞き方（聞く態度・自分の知りたいことや、分からないことを質問する姿）について、児童自身が気付くようにした。視聴後に対話させることにより、よい聞き方を意識するとともに、質問するときのヒントにしていく。

6 単元の指導計画(全6時間扱い)

時	目標	主な学習活動	評価規準（評価方法）
1	ききかた名人になって、ともだちのことをくわしくしろう ・ 友達のことを文章に書いて知らせ「ききかた名人になろう」という学習の見通しをもつことができる。 ・ 友達に聞きたいことについて意見を出し合う。	・ 学習の見通しをもつ。 ・ 「ききかた名人」になるために、詳しく知りたいことについて意見を出し合う。 【予想される話題】 ・ お気に入りの場所 ・ 将来の夢 ・ 宝物 ・ 行ってみたい国 ・ 挑戦したいこと ・ 最近楽しかったことなど ・ 学習計画を立てる。	【主】質問することを考えようとしている。（ノート）
2 本 時	・ 友達について詳しく知るために、質問をすることができる。	・ 2つの映像を見て、よい聞き方（聞く態度・自分の知りたいことや、分からないことを質問する姿）について気付く。	

動画①

A：私、縄跳びたくさん練習して得意になったの。
 B：……。 (目を合わせない。手いじりをしている。)
 A：ねえ、聞いてる？特にね、二重跳びの練習を頑張ったの。
 B：ふーん。
 A：この間ね、10回も跳べてとても (嬉しかったんだよ。)
 B：え、それだけ？私なんて20回も跳べるよ。
 A：そう。
 B：どうしたの。もっと何か言ってよ。
 A：なんだか、話しててつまらなくなってきたよ。
 B：どうして？ちゃんと話聞いていたのに。

《予想できる児童の発言例》

- ・目を見て話を聞いていない。 ・相手の話を詳しく聞こうとしていない。
- ・相槌をうっていない。
- ・最後まで話を聞かないで話し出している。

動画②

A：私、昨日初めて二重跳びができたの。
 B：すごいね。よかったね。
 A：私、二重跳びが全然できなかったからね、ずっと練習してたの。
 B：(うなずきながら聞く。) 二重跳び、すごく難しいよね。すごいよ。どうやって練習したの。
 A：友達に手が伸びてないか、見てもらったの。
 B：そうだったの。どのくらい練習したの。
 A：学校の休み時間も練習したし、家に帰ってからも夕方まで練習したの。
 B：たくさん練習して頑張ったから跳べるようになったんだね。

《予想できる児童の発言例》

- ・目を見て話を聞いている。 ・「どうやって」「どのくらい」など、知りたいことを質問
- ・相槌をうっている。 している。
- ・最後まで話を聞いている。

- ・ペアトーク①
- ・質問している様子をタブレットで録画する。
- ・全体でよい聞き方 (聞く態度・自分の知りたいことや、分からないことを質問する姿) を共有する。
- ・ペアトーク②

【思】「ききかた名人」になるために、話し手が知らせたいことや自分が聞きたいことを落とさないように集中して聞き、話の内容を捉えて感想をもっている。(観察・タブレット)

【主】進んで友達に質問している。(観察・タブレット)

3	・聞き足りなかったことを確かめ、質問をすることができる。	・前時のよい聞き方（聞く態度・自分の知りたいことや、分からないことを質問する姿）を、動画を使って全体で共有する。 ・前時の自分の質問した動画を見返し、聞き足りなかったことを質問する。	【知】 知りたいことを聞くために適切な言葉を探している。（観察） 【主】 進んで友達に質問している。（観察・タブレット）
4 ・ 5	・質問したことをもとに、友達のことを知らせる文章を書くことができる。	・どのように紹介文を書いたらよいかを考える。 ・必要に応じて録画した動画を活用する。 ・紹介する順序を決める。 ・紹介文を書く。	【知】 身近なことを表す語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、言葉には意味による語句のまとまりがあることに気づき、語彙を豊かにしている。（観察・ノート） 【思】 質問して分かったことをもとに、まとまりや順番を考え文章を書いている。（観察・ノート） 【主】 書くことの楽しさを味わい、みんなに知らせたいことを書こうとしている。（観察）
6	・文章を読み合い、感想を伝え合うことができる。	・友達作品のいいところ（質問などをして詳しく書いている。）を考えながら読み合う。	【思】 友達作品を読み、その良さについて感想を述べている。（観察）

7 本時の学習(2/6)

(1)ねらい

話し手が知らせたいことや自分が聞きたいことを落とさないように、集中して聞くことができる。

(2)展開

学習過程	指導事項・主な学習活動	○教師の手だて ◆評価（評価方法）
1 めあてを確認する。		○めあてを確認し、学習の見通しをもたせる。
ききかた名人になるために、ともだちにくわしくきいてみよう。		
2 質問のしかたを考える。	・教員の動画①を見て、楽しく対話ができない理由を出し合う。 ・教員の動画②を見て、対話のよいと思ったところ、真似したいところを出し合う。	

3 ペアトーク	・ペアになり友達について質問をする。 ◎話し手が知らせたいことや、自分が聞きたいことを落とさないように集中して聞く。 《ペアトーク①（5分）》 ・話し手と聞き手に分かれ、質問をする。 ・一人一台タブレットを用意し、話し手と聞き手、それぞれ録画をする。 全体共有	○児童の対話の様子からよい聞き方（聞く態度・自分の知りたいことや、分からないことを質問する姿）を全体で共有する。 理由（どうして） 時（いつ） 方法（どうやって どういうふうに） など ◆進んで友達に質問することができる。 【主】（観察・タブレット） ◆「ききかた名人」になるために、話し手が知らせたいことや自分が聞きたいことを落とさないように集中して聞き、話の内容を捉えて感想をもっている。【思】（観察・タブレット）
4 振り返る	《ペアトーク②（5分）》 ・学習の振り返りを行う。 （何〈言葉や態度面〉に気を付けて質問したかを振り返る。）	○詳しく聞くために使った言葉や、気を付けたところはどこかを振り返るよう、指示する。

8 本時の手だて

(1)対話を楽しむための工夫

- ・自分たちが選んだ話題設定にしたことで、児童が主体的に取り組むことができていたか。

(2)聞くことの力を高める工夫

- ・児童が使った言葉を元にした質問する観点の掲示は、対話の中で生かされていたか。
- ・二本の動画を視聴することで、対話する際のよい聞き方（聞く態度・自分の知りたいことや、分からないことを質問する姿）を意識して聞くことができていたか。